



ジェンダー・セクシュアリティの 多様性を踏まえた 教職員向けガイド



■ 目次 ■

1. はじめに
2. 学生からの相談・報告内容
3. 性を構成する要素（用語紹介）
4. 多様なジェンダー・セクシュアリティの
あり方のインクルージョンの対応例
5. 学生の声／相談窓口

発行・問合せ先

早稲田大学ダイバーシティ推進室

E-mail diversity@list.waseda.jp

Web <https://www.waseda.jp/inst/diversity/>



（2025年3月発行）

はじめに

早稲田大学では2017年7月「早稲田大学ダイバーシティ推進宣言」を公表し、「本学の構成員の誰もが、尊厳と多様な価値観や生き方を尊重され、各自の個性と能力を十分に発揮できる環境」づくりに努めています。

しかしながら、ジェンダーやセクシュアリティに関する誤解や偏見、基本的な知識がないといった状況から、苦痛や困難を感じ、生きづらさを感じている学生が依然としていることも事実です。

このような状況を踏まえ、ダイバーシティ推進室は、ジェンダー・セクシュアリティセンター（GSセンター）、学生相談室、コンプライアンス推進室の協力を得て、「ジェンダー・セクシュアリティの多様性を踏まえた教職員向けガイド」を発行し、全教職員へ配付しております。

性的指向・性自認・性別表現等を含め、個々人が持つ多様な背景に関わらず、学生が不安を感じることなく、安心・安全な環境で大学生活を送ることができるよう、ぜひ本ガイドをご活用ください。



2. 学生からの相談・報告内容

これまでにGSセンターに学生から相談のあった内容をご紹介します。

※匿名性確保のため、一部相談内容を改編しています。

グループ分けて、

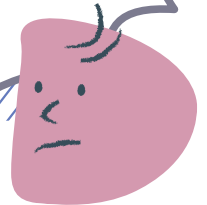
「男女が均等になるように」

と言われた。



「最近ではLGBTQ+の人
もいますが…」

と、これまでは
いなかったのかのような
前提で話された。



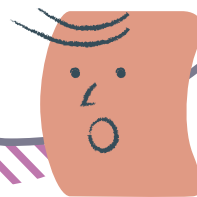
授業で

「その、後ろの男性」

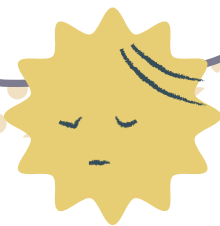
と性別を**決めつけて**
呼ばれた。



ゼミや職場で学生が
LGBTQ+の人を揶揄する
言葉を使っていたが、
教職員から注意がなかった。



合宿の時に、
事前に希望を聞かれないまま、
男女の部屋割りがされていた。



「誰もが恋愛する時代ですが」

と、恋愛的に他者に惹かれない
自分や友人の恋愛指向を
度外視する発言があった。



相談はLGBTQ+の人に限らず、あらゆる学生から寄せられます。

3. 性を構成する要素（用語紹介）

性的指向 (Sexual Orientation)

ある人がどのような対象に性的に惹かれるのか／惹かれないのか

Lesbian [レズビアン]

女性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの女性に性的魅力を感じる人。自身の性的指向と恋愛指向を別に捉えるレズビアンの人もしればそうでない人もいる。

Gay [ゲイ]

男性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの男性に性的魅力を感じる人。自身の性的指向と恋愛指向を別に捉えるゲイの人もしればそうでない人もいる。

Bisexual [バイセクシュアル]

2つ以上のジェンダーに性的魅力を感じる人。

Heterosexual [ヘテロセクシュアル]

主に女性か男性かのどちらかの性自認の人で、自分とは異なる女性か男性かに性的魅力を感じる人。

Asexual

[アセクシュアル／Aセクシュアル]

他者に性的魅力を感じない、もしくは感じる程度や頻度が低い人。

恋愛指向 (Romantic Orientation)

ある人がどのような対象に恋愛のおよび感情的に惹かれるのか／惹かれないのか

Lesbian [レズビアン]

女性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの女性に恋愛的魅力を感じる人。自身の恋愛指向を性的指向と別に捉えるレズビアンの人もしればそうでない人もいる。

Gay [ゲイ]

男性もしくはそれに近いアイデンティティをもっていて、ほかの男性に恋愛的魅力を感じる人。自身の恋愛指向を性的指向と別に捉えるゲイの人もしればそうでない人もいる。

Biromantic [バイロマンティック]

2つ以上のジェンダーに恋愛的魅力を感じる人。

Heteroromantic [ヘテロロマンティック]

主に女性か男性かのどちらかの性自認の人で、自分とは異なる女性か男性かに恋愛的魅力を感じる人。

Aromantic

[アロマンティック／Aロマンティック]

他者に恋愛的魅力を感じない、もしくは感じる程度や頻度が低い人。

恋愛的に惹かれる対象と性的に惹かれる対象が異なる人や、恋愛的に他者に惹かれる／惹かれない度合いと、性的に他者に惹かれる／惹かれない度合いが異なる人もいます。

LGBTQ+

LGBTQ+は、Lesbian [レズビアン]、Gay [ゲイ]、Bisexual [バイセクシュアル]、Transgender [トランスジェンダー]、Queer [クィア]とQuestioning [クエスチョニング]の頭文字と、それ以外の規範に沿わない様々な性のあり方を「+」で表現した言葉。「LGBTQIA+」「LGBTQs」などと表記されることもあります。また「性的マイノリティ」と同義で使用されることもあります。

Ally (アライ)

英語で仲間や味方、支援者、同盟を意味し、LGBTQ+の人たちやその活動を支持し積極的に支援する仲間のことを表します。

SOGI

「性的指向 (Sexual Orientation)」と「性自認 (Gender Identity)」の頭文字をとって、「SOGI」と言われます (ソジ、ソギと読む)。性のあり方を包括的に捉える考え方として広く用いられています。

個人の性のあり方はいくつかの要素の組み合わせによって、かたちづくられていると考えられています。それぞれの要素自体が多様であり、その組み合わせも多様であるため、そのあり方は人それぞれ異なります。ここではいくつかの要素を紹介します。

性自認 (Gender Identity)

ある人が自身のジェンダーをどのように認識しているか

Transgender [トランスジェンダー]

生まれた時に割り当てられた性別（戸籍の表記など）と性自認が異なる人。トランスジェンダーで性自認が女性の人を「トランスジェンダー女性」や「トランス女性」、男性の人を「トランスジェンダー男性」や「トランス男性」という。

Cisgender [シスジェンダー]

生まれた時に割り当てられた性別と性自認が一致している人。シスジェンダーで性自認が女性の人を「シスジェンダー女性」や「シス女性」、男性の人を「シスジェンダー男性」や「シス男性」という。

Xジェンダー [エックスジェンダー]

自身のジェンダーを男女の中間（中性）、性別がない（無性）、男でも女でもある（両性）あるいはその間で流動性がある（不定性）と認識している人など。日本で生まれた呼称。

Non-Binary [ノンバイナリー]

男女二元論から離れ、男性、女性のいずれでもない性自認を持つ人の総称。

Questioning

[クエスチョニング]

自分の性のあり方が不確かな人、もしくはそれを問い直している状態。

Queer

[クィア]

性に関する社会規範に従わないあり方。LGBTQ+の総称として使われることもある。

各性のあり方のカテゴリーを横断して使用するコンセプト

性別表現 (Gender Expression)

ある人が社会生活の中で自身のジェンダーを表現する、行動、服装、化粧、髪型、言葉遣いなど

※性別表現、性的指向、恋愛指向、性自認はそれぞれ異なる要素です。このことから、ある人の性別表現からその人の性的指向や性自認のあり方を判断することはできません。

出生時に割り当てられた性別 (Sex Assigned at Birth)

外性器などの特徴などを踏まえて出生時に割り振られる性別のこと

カミングアウト

LGBTQ+の人が自らの性のあり方を自分の意思で他者に伝えること。
※必ずしも不特定多数の人に開示することを意味しません。

アウティング

本人の同意なしに、その人の性自認・性的指向・恋愛指向・出生時に割り当てられた性別など、またそれらを特定し得る情報を暴露する行為。

ミスジェンダリング

トランスジェンダー、ノンバイナリー、Xジェンダーなどの人に対して、その人が望まない特定のジェンダーに関連付けられた言葉を使用すること、またそのように扱うこと。

STOP!

アウティングとミスジェンダリングは、その行為に影響を受けた相手との信頼関係を壊すだけでなく、相手の居場所を奪い、最悪の場合、**生命**にかかわる事例につながりかねない重大な人権侵害です。

4. 多様なジェンダー・セクシュアリティのあり方の インクルージョンの対応例

1

その場にLGBTQ+学生があたりまえに存在することを意識する。

2

性別に関する「当たり前」は全員に共通しないことを意識した言動を心がける。

3

ミスジェンダリングをしない。

事例 1

「最近はLGBTQ+の人もいますが」と、これまではいなかったかのような前提で話された。

①の事例

事例 2

ゼミのメンバーや同僚の学生スタッフがLGBTQ+の人を揶揄する言葉を使っていたが、教職員から注意がなかった。

①の事例

事例 3

「誰もが恋愛する時代ですが」と、恋愛的に他者に惹かれない自分や友人の恋愛指向を度外視する発言があった。

①の事例

事例 4

「そこの、後ろの男性」と性別を決めつけて呼ばれた。

①②③の事例

事例 5

「男女が均等になるようにグループを作って」と言われ、どうしたらいいかわからなかった。

①②③の事例

事例 6

ゼミ合宿で希望も聞かれないまま、男女の部屋割りがなされた。

①②③の事例

解説

対応のポイント

- ▶ 特定の場所や状況下に限らず、いかなる場合もLGBTQ+学生の存在を否定するような発言はお控えください。
 - ・性別二元論、異性愛、すべての人が他者に惹かれることなどを前提として話すことも、それに該当しない人の存在を否定する言動になりえます。
 - ・明らかな差別、悪意のある侮辱はもちろん、LGBTQ+の人を揶揄する言動もお控えください。
 - ・差別的な言葉やジェスチャーは時や場所とともに変化することにも留意してください。
- ▶ LGBTQ+の人を揶揄するような場面に同席した際には、当該用語やその用法が侮辱となり得ること、性に関するステレオタイプを押し付けないことを指摘し、使用しないようご指導ください。
- ▶ ある人の見かけや名前から自分が抱く印象で学生に対して特定のジェンダーに紐づく扱いをすることはミスジェンダリングになってしまうことがあります。
 - ・LGBTQ+コミュニティに当事者性を持つ学生かどうかは外見や氏名で判断されるものではありません。たとえば名前に「子」がついている、髪が長いということだけで相手のジェンダー・セクシュアリティは判断できません。
 - ・学生を名前で呼ぶ場合は、共通の敬称（「～さん」が多い）を用いてください。
 - ・そばまで来て「あなたと言う」、「そこの紫の服の方」など服の色や柄を指すこともできます。
 - ・外国語で行われる授業における学生の敬称、例えばMx.、Mr.やMs.や、they、heやsheなどの三人称については、メールや紙面アンケートにて、学生が教員にどう呼ばれたいかの希望を伝える機会を設けるなどの対応ができます。
- ▶ 「普段あまり話さない人とグループを作ってください」などと言い換えたり、教員が機械的に番号を割り振るなど、ジェンダーを基にしないグループ分けが考えられます。
- ▶ セミナーハウスを利用する合宿の際は、部屋割りや食事などに関して個別に対応を依頼できる「配慮相談フロー」が学生生活課のウェブサイトを確認可能であることを学生に対して周知してください。セミナーハウスを利用しない合宿の際は、部屋割り等に関して学生本人が個別に希望を伝えられる機会を設けてください。
 - ・カミングアウトしている範囲などLGBTQ+学生が置かれている状況は各々異なるため、本人の意思を尊重した個別の対応が必要となります。また、アウティングになることがないよう、丁寧に対応してください。

学生から相談を受けたら…

Step 1

「何に困っているか」「どのようにしていききたいか」を確認する。

Step 2

丁寧に対応したいと考えていることを伝える。

Step 3

相談に関する情報をどこまで共有してよいか確認・承諾をとる。

学生からの相談にあたって、不明な点等がありましたら、GSセンターにご連絡ください。
専門の職員が対応いたします。



≡ 大学生活が過ごしやすくなった ≡

5. 学生の声

教員にカミングアウトしたとき、しっかりと個人情報として守ってくれたので安心できた。

語学授業の初回に、学生に対して使ってほしい呼称や人称代名詞を尋ねるアンケートを実施してもらえたため、安心して授業に臨むことができた。

トランスジェンダーの学生としてゼミ合宿への参加に不安があったが、部屋割りや入浴について教員に相談したところ、関係箇所とも連携・配慮してもらい、安心して合宿に臨むことができた。

キャリア相談の際、担当の方がアライ(AIly)であることを伝えてくれたので、安心して相談できた。

トランスジェンダー学生の受け入れの体制が教育実習先にあるか分からず悩んでいたが、教員や職員のサポートにより普段生活している性別で実習に臨むことができた。

ジェンダーやセクシュアリティの問題を扱う授業ではなかったが、教員が適切な知識を持っていることが話から伝わり嬉しかった。

ゼミの飲み会で、学生同士が「ホモネタ」で盛り上がっていたことに気づいた教員が注意をしてくれたおかげで、飲み会に楽しく参加できた。

相談窓口

■ ジェンダー・セクシュアリティセンター (GSセンター) (30号館1階 [本館] / 10号館2階 [分館])

受付時間 月一金 (時間はウェブサイトをご確認ください)

E-mail gswaseda@list.waseda.jp

Web <https://www.waseda.jp/inst/gscenter/>

※教職員の個別相談ご利用には予約が必要です。



■ 保健センター学生相談室 (25-2号館6階)

● 学生生活上のどんな悩みにも応じています。

受付時間 月一金 9:15 ~ 17:00

電話 03-3203-4449【予約優先】

Web <https://www.waseda.jp/inst/hsc/information/counseling>



■ コンプライアンス相談窓口

● ハラスメントに関する相談に応じています。相談員が秘密厳守でお話を伺います。相談は匿名でも可能です。

学外窓口 (委託先: NEC VALWAY株式会社)

受付時間 月一金 8:30 ~ 19:00
土 8:30 ~ 17:00

電話 0120-123-393

Web <https://koueki-tsuhou.com/WFcXVtaEFdCd/>

※英語・中国語対応可能、メール可



学内窓口 (コンプライアンス推進室)

Web

<https://www.waseda.jp/inst/harassment/>
(ハラスメント防止委員会Webサイト)

